

港北区災害ボランティア連絡会ニュース



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

89号

FB 港北区災害ボランティア連絡会

2021年1月

*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください



新年あけましておめでとございます

会員の皆さんはどのようなお正月を迎えられたでしょうか。新型コロナウイルスの感染拡大に振り回された1年でしたが、2021年もまだこの脅威と付き合わねばならないようです。

コロナ禍での災害対応の難しさは、昨年発生した熊本豪雨でボランティアが圧倒的に不足したため手つかずの被災家屋が残り、新年を被災当時のままの家で迎えざるを得ない事態を引き起こした事でもはっきりわかります。

横浜市を始め各自治体は避難所での相互の距離を確保する指針を出しました。その結果大幅な収容数の減少が試算で出されています。避難所にも入れない、ボランティアも来ない(来させられない)と言う緊急事態になるかもしれないのが現在なのです。このような状況を考えると私たち地域防災ボランティア団体の役割と重要性が改めて見えてきます。

1つ目は、減災対策を推し進める重要性です。災害対策の基本は「死なない」「傷つかない」「生活を守る」ことです。以上の3点が確保できていれば避難所に頼る必要性はなくなります。

2つ目は、そのための対策を市民が進めていくための知識と行動を広める役割です。様々な形で多くの防災情報が流されているにもかかわらず、それを具体的に進める市民は多数派になっていません。これを改善するためには町内会・自治会とも協力し合いながら、地域防災訓練のあり方を改善していくとか、口コミでの防災情報の伝達などを進めるのも大切な使命です。

以上の目的を果たすためには会員の皆さんの力が不可欠です。今後のコロナの感染状況によっては定例会もリモートだけで行うようになるかもしれません。その中で活動を進めるためには、皆さんの積極的な発言と具体的な動きが不可欠です。活動を一緒に作り上げるため今年もご協力をお願いいたします。

港北区災害ボランティア連絡会会長 宇田川規夫

コロナ禍での災害ボランティア

センター運営はどうするか

シミュレーション訓練を終えて

12月20日の訓練はこのような流れでした。

1. 受付訓練。

(1) 玄関で検温



外気温の影響を受けにくい玄関ホールでの検温

- (2) 駐車場でボランティア登録書記入
- (3) 3階団体交流室で登録・受付
- (4) 多目的研修室でボランティア待機

2. マッチング・送り出し訓練

- (1) 多目的研修室にニーズを掲示し、希望のニーズの前でボランティア待機
- (2) ニーズごとにマッチング
- (3) ボランティアグループの送り出し

3. フォロー訓練

- (1) 玄関でボランティアを迎え、リーダーのみ 3

階に誘導



一方通行を確保するため、外階段を利用

いろいろな問題点が見えた

訓練の結果コロナ対応で次のような問題点が見えました。今後の定例会やタスクの話し合いで生かしていきたいと思えます。

- 1. 玄関前、駐車場などボランティアが待機する場所で密集しないような対策が必要。
- 2. 気温が低いため非接触型体温計が動作不良であった。また待機中の寒さ対策も必要だと感じた。
- 3. 玄関→駐車場→団体交流室→多目的研修室というボランティアの動線を明確にする。
- 4. ボランティア登録書の記載に時間がかかる。

- 5. 問診票をチェックするタイミングが明確でなかった。
- 6. ボランティアの名札をどうするか明確でなかった。
- 7. ボランティアグループに説明する際に密集しないよう対策が必要である。
- 8. ボランティアが使用する文房具の消毒が必要である。
- 9. 帰着したボランティアのリーダーだけ 3階に上がったが、他のボランティアへのねぎらいが必要である。
- 10. タスク責任者事前の役員会論議に参加する必要がある。

(シミュレーションタスクまとめ)

二回目の訓練に参加して

毎年 12 月に行われるシミュレーションで、今年は災害ボランティアセンターの受付からフォローアップという一通りの流れを訓練しました。今回は、感染症に対応した訓練という初めてのことが多い訓練でした。

シミュレーションの中で、私は登録担当となりボランティアから登録書や問診票を受け取り、名簿一覧に必要事項を記入して名札と名刺サイズの登録書を渡す訓練をしました。間違えないように他の人が見てもわかるように手書きで一覧表を記入していき、名札入れに名札と登録書を入れて渡す作業は、とても時間がかかりボランティアをお待たせしてしまいました。また、今回新型コロナウイルスの感染防止のために登録とニーズの場所を別室としたため、部屋移動が生じました。ボランティアがわかりやすく受付を済ませるためにも動線やレイアウトを考えていく必要を感じました。

訓練終了後の振り返りでは、たくさんのご意見が出てきました。見直す点もあります。そのため、

いつか被災した時にボランティアをしてくださる方や、区民の皆さまが安心して活動・依頼ができる災害ボランティアセンターとなるよう災害ボランティア連絡会の皆さまと一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

港北区社会福祉協議会 石河沙也佳

リレー連載 我が家の防災 ⑳

宮腰さんちの防災

1. 我が家の防災と言えば、一般的なご家庭と比べても、十分なものかどうか分かりません。備蓄品としては、食品では、レトルト食品(ご飯、カレー、カップラーメン、お餅など)缶詰(サバ缶、シーチキン)等、飲料水(ミネラルウォーター、お茶)などです。

また、持ち出し可能品として、カセットコンロ、ガスボンベ、懐中電灯、ヘッドランプ、ローソク、乾電池、携帯ラジオ、携帯トイレ、ホイッスル、携帯用帰宅困難者支援セット(包帯、ガーゼなど)、エマージェンシー・ボトル(ライト、アルミブランケット)などがあります。

食品や飲料については、日頃から、賞味期限には注意しており、期限の2ヶ月前ぐらいには食べたり飲んだりして、処理すると共に、同等のものを補充しいざと言う時に備えています。

2. 自宅は、裏手(北側)に早淵川が流れており、区のハザードマップでは、緑色部分[浸水深の目安が0.5~3.0m未満(階天井を超えて浸水する深さ)]との表示になっています。

しかし、ここに住み始めて30年以上経過しますが、河川改修が行われたためと思いますが、これまで、大雨や台風に見舞われても、洪水を受けたことが無いため、洪水が起きることは無いと勝手な判断をしています。(危険な

判断をしていると言われると思います。)

3. 備蓄関係とは別になりますが、地区などの防災訓練に参加しています。現在、地区としては、あすなろ地区の集合住宅に居住しております。地区では5月、集合住宅では11月に防災訓練が行われており、特に、地区の防災訓練には参加するように心掛けています。(理由は、地区では集合住宅が1つの単位になっていますが、担当役員以外の参加が少ないためです。更に、訓練を通して、基本的な動作を忘れないように意識付けをしています。)

私としては、この11月の集合住宅の防災訓練(実地と講話)に参加をしました。

宮腰信一

コロナ禍の防災訓練

北綱島小のケース

今年度の訓練はコロナ感染の影響のため、何回も検討を重ねた結果、十年来続けている小学校との合同訓練ではなく、また地域住民の皆さんも一緒ではなく、拠点の運営委員だけの訓練をすることになりました。あくまでコロナ感染対策を取り、参集から初動(建物、周辺安全確認・救出救護・初期消火)・区画線引き(体育館)・パーテーション設置・受付・割り振りまでの訓練をすることになりました。

避難者として、もちろん



2人用パーテーション

マスク姿で参集した運営委員は開門と同時に一斉に中庭に入り、検温・問診・消毒を済ませ、初動用備品 BOX・コロナ対策 BOX(非接触体温計・消毒液・フェイスシールド・ビニール手袋)などを準備して開設準備を進めました。建物、周辺安全確認に移りその結果を本部に伝え(トランシーバー)、庶務班の指示により各班は次の活動に移ります。そして一般避難者(運営委員です)の受付が始まり(消毒・検温・問診・避難者カード・健康状態チェックシート)、その後問診結果により割り振ります。その時にもソーシャルディスタンスに注意を払います。これで一応の訓練の流れは終わりです。

その後体育館で、パーテーションの設置・体験に移りました。パーテーションの段ボールは、行政から戴けることになっていますが、数と時期がわからないので、プラ段ボール(拠点オリジナル)で作成しました(まだ試作)。プラ段ボールは段ボールより軽く、消毒も出来ますが、絶対段ボールより良いとは言い切れません。しかしいつ来るかわからない災害ですので、一部プラ段ボールで作成を進めることになりました。又、6年生が今後作成に協力してくれるという学校からの嬉しい申し出がありました。パーテーションは1人用・2人用・3人用・4人用を準備しました。私も中に入ってみました。プラのせいか窮屈感はありませんでしたが、床は冷たく出入口が不安で、もう一つ実感がわきませんでした。

庶務は本部横のホワイトボードに避難者の人数や、負傷者や火災の状況などを時系列に書き出し、広域地図に負傷者の発見場所や火災の場所を書き入れました。やはりこの情報の共有はとても大切だと思いました。

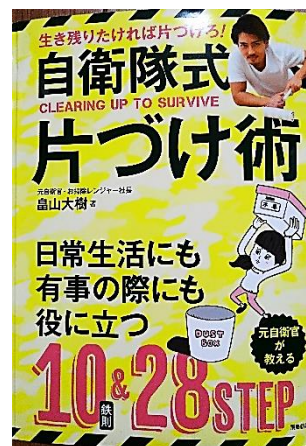
今回のこの訓練方法(何も準備しないで、一

斉同時に動く)は初めてだったので、運営委員は初め戸惑いましたが、これが自然だと思いました。又この状況から、色々工夫が生まれると思いました。 北綱小拠点運営委員・付岡

災害本 自衛隊式片付け術

畠山大樹著 飛鳥出版社 1200円(税抜き)

特に災害について特化している書籍ではありませんが、著者が執筆を思い立った動機の一つには2年前に故郷を襲った北海道胆振東部地震がある。「災害時は1分1秒が命取りになりか



ねない。素早く行動するためには掃除や片づけの習慣化が大切になる」という考え方に同感をしました。著者が自衛隊に入隊していた時の教えと生活が基になっています。起きては困る災害ですが、いつ起きるかわからない災害です。物品の備蓄だけでなく、心の備蓄も……。

(付岡)

編集後記

☆体調管理ができず大事な訓練を欠席。この時期の発熱は肝を冷やします。(宇田川)

☆コロナ禍の訓練で多くのことに気づかされました。これからの活動に活かしたい。(付岡)

☆新型コロナウイルス対応で、ボーイスカウト活動が「中止」続きです。これも「災害」ですね。(中島)

☆緊急事態宣言が発出されましたが、人により認識にかなり温度差があって心配です。(室伏)